



エリック・ホルナゲル 著  
北村 正晴 (東北大学名誉教授)・  
小松原 明哲  
(早稲田大学理工学術院教授) 監訳

ISBN : 978-4-303-72985-1  
海文堂出版刊  
A5判・216頁  
定価2,700円(税抜)  
2015年11月刊

## Safety-I & Safety-II

— 安全マネジメントの過去と未来

安全方策を考える上で「うまくいかなくなる可能性を持つこと (Things that might go wrong)」を取り除く (Safety-I) ののではなく、「うまくいくこと (Things that go right)」の理由を調べ、それが起こる可能性を増大させる (Safety-II) が現代社会において必要になってきたと述べている。

悪い結果をもたらす原因をすべて除去すれば安全が達成されるところを Safety-I であるが、IoT時代においては脅威の完全除去は困難である。かつてのようにユーザを定義し自装置や、自システムにおいて脅威を洗い出せたにしても不十分である。仮に設計時にすべての脅威に対応・除去できたとしても、製品やサービスのライフサイクル全体で脅威の変化がないとは考えにくい。更には大震災のような自然要因、また社会要因の除去は不可能だろう。

現代社会の安全を考えるに際しては、これらの実態に目を向けてみるが必要であり、これに対応した安全方策が Safety-II である。

ホルナゲル教授は Safety-I を否定はしていない。またすべてが Safety-I から Safety-II に置き換わると言っているわけではない。脅威の状況に柔軟に対応して安定を保つ、レジリエンス力強化の必要性を主張している。  
(遠藤秀則)



Sam Newman 著  
佐藤 直生 監訳  
木下 哲也 訳

ISBN : 978-4-87311-760-7  
オライリージャパン刊  
A5判・344頁  
定価3,400円(税抜)  
2016年2月26日刊

## マイクロサービスアーキテクチャ

Webサービス企業を中心にいち早くサービスを開始し、ユーザの反応を見ながら軌道修正や機能の追加などを次々に実施していくスピード感のあるサービスが求められている。そうした流れを実現する新しいシステム・ソフトウェア開発のアーキテクチャスタイルであるマイクロサービス (Microservices) が注目されている。ビジネス機能に沿って複数の小さいマイクロサービスに分割してそれらを連携させることで、迅速なデプロイ、優れた回復性やスケラビリティを実現するという。本書はマイクロサービスの特徴や概念、採用する上で必要となる技術について著者の体験談やNetflixやAmazonでの事例を交えながら広く記述されている。

技術書だと思って読み進めていたら目を引いたのが10章の「コンウェイの法則とシステム設計」であった。モノリシックな世界では開発者が運用上の懸念に無関心になってしまう傾向があり、このような思考の開発者をマイクロサービスのプロジェクトにアサインするのは危険だということである。開発組織の設計にまで解説は広がっている。

本書は、特定の言語や技術に特化していないのでマイクロサービスの採用を考えていなくても新たなシステム開発のスタイルを学ぶ書籍として、また、マイクロサービスの持つ特徴から、本書を俯瞰することにより、アプリ/インフラそして運用の境界なく働くことができるDevOpsエンジニアの参考書にも適していると感じた。  
(遠藤秀則)